



# Good Project Association

## Annual Report 2025

一般社団法人 Good Project Association  
2025年度活動報告

正式名称 一般社団法人 Good Project Association  
設立 2025年1月21日  
所在地 東京都渋谷区神宮前4-26-28 原宿V2ビル2F  
事業年度 毎年1月1日～12月31日  
目的 「プロジェクトマネジメント」に対するイメージの更新、  
およびプロジェクト実装・推進に関する新たな職能の確立

役員構成 代表理事: 清水 千晶  
理事: 重原 幸子、湯浅 祐佳、大谷 一夫  
(2025年度未現在)

Web <https://good-project.or.jp/>

# VISION

**不確実性の高い時代。  
誰もが必要な時に、  
必要な変化を生み出せる  
世の中をつくりたい。**

プロジェクトは本来、人々が協働して価値ある変化を起こすための強力な手段です。

けれど、その力が限られた人や組織にとどまり、領域によっては創造行為として認識されていないのが現状です。

私たちが提案する“Good Project”は、タスクをこなすだけではなく、意味ある変化を生み出し、その過程と知恵が未来へと引き継がれていく創造行為です。

私たち Good Project Association は、このような「“よい”プロジェクト」の実践と普及を通じて、“誰もが必要なときに、必要な変化を起こせる世界”を形にしていきます。

# MISSION

**立ち上げて終わらせるものから、  
育てて続いていくものへ。  
プロジェクトマネジメントを  
拡張し、再定義する。**

プロジェクトマネジメントは進行管理だけ行う業務とされていますが、私たちの定義は違います。

私たちは「プロジェクト」を、世の中に価値ある変化を生み出す集団的な創造行為と定義します。

そのために、私たち Good Project Association は、「現場知」としてのプロジェクト実装やプロジェクト推進の知見を共有・普及し、“よい (Good)” プロジェクトを増やす活動を行います。



# 代表挨拶

## はじめに — Good Project Association 設立に寄せて

日頃より Good Project Association の活動にご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。2025年に産声を上げた当法人は、皆さまのお力添えにより、無事に初年度を終えることができました。まだ歩み始めたばかりの私たちを、設立当初より支え、見守ってくださっているすべての方々に、心より感謝申し上げます。

私にとっての Good Project Association の出発点は、2023年に大阪・関西万博のパビリオンプロジェクトに参加したことでした。建築・内装・デザイン・映像と、それぞれ異なる専門分野を背景に持つプロジェクトマネージャー（以下「PM」）が一堂に会するチームに加わり、互いの進め方をすり合わせながら協働するなかで、それぞれの手法が思いがけない場面で役に立つことを実感しました。通常、一つのプロジェクトに関わるPMは一人であることが多いものですが、専門分野の異なるPMが横のつながりを持つことには、個々の経験を拡張し、新しい視点を得ていくうえで大きな意味があるのだと気づかされました。

この体験から、同じような立場の人たちが継続的に集える場をつくりたい。そんな思いから設立を呼びかけたのが、Good Project Association の始まりです。

## 「プロジェクトを推進する人」のための、開かれた場へ

組織化にあたって大切にしたのは、「PMだけの業界団体」にはしないことでした。たとえば出版業界の編集者、社内プロジェクトを推進する企業人、自治体でまちや事業を動かす行政職員——肩書きや所属はさまざまでも、プロジェクトという営みを推進する立場にある人は、社会のあらゆる場所に存在しています。実際、本会の理事にも、現職の市役所職員が名を連ねています。

特定の業界や職能に閉じるのではなく、「プロジェクト」という営みを広く捉え直し、ともに考えていく場でありたい。そう考えたとき、私たちは「よいプロジェクトとは何か」という根本的な問いへとたどり着きました。正解のないこの問いに対して、対話を重ね、気づきを持ち寄り、その先のヒントを発信していく——そんな団体として、私たちは自らに「Good Project Association」という名を冠しました。本アニュアルレポートが、その探究の一端を皆さまと分かち合う機会となれば幸いです。

Good Project Association 代表理事  
清水千晶

# Activity Report 2025

プロジェクトの実践現場にいる人たちが集まり、語り、学ぶ。  
設立初年度は、その「場」をつくることに全力を注いだ一年でした。

キックオフイベント

2025年2月19日(水) 東京・外苑前

## Good Project Association キックオフ



Good Project Association (GPA) の設立を記念し、プロジェクト実装・推進に携わる実務家や経営者が集うキックオフイベントを開催。GPAが掲げる「“よい”プロジェクトを増やす」というビジョンや設立背景を共有するとともに、業界や職種を横断する2つのトークセッションを実施した。プロダクト開発、地域づくり、ブランド構築、クリエイティブ制作など多様な現場の実践者が、プロジェクト推進における課題や工夫、経営視点から見たプロジェクトの価値について議論。交流会では参加者同士が経験や知見を持ち寄り、これからの時代に求められるプロジェクトマネジメントや共創のあり方について活発な意見交換が行われた。

コラボレーションイベント

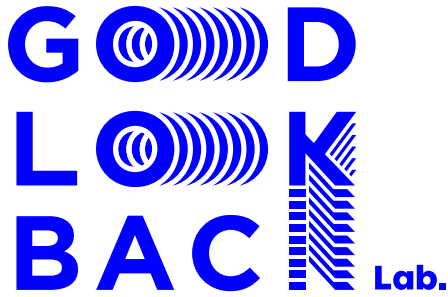
2025年6月10日(火) 京都  
2025年8月26日(火) 東京・渋谷

## Loftwork 様共催プロジェクト



クリエイティブ・カンパニーLoftworkとのコラボレーションにより、GPAの問題意識を異なるコミュニティへと拡張。「創造と実装の間をどう埋めるか」「AIと人はどのように協働してプロジェクトを進めるか」をテーマに、多様な分野のプロジェクト実践者が知見を共有した。地域づくりや事業開発、クリエイティブ制作、コミュニティ運営などの現場経験をもとに、アイデアをプロジェクトへと育てるプロセスや、合意形成・共創を支える考え方、複雑な課題への向き合い方について議論。さらにAI時代における創造性や人間ならではの価値創出についても意見が交わされ、分野や組織の枠を越えたプロジェクト実践者同士が学び合う越境的な対話の場を実現した。

# Good Look Back Lab. 第0期



「ふりかえり」のオルタナティブを見つけるために立ち上げられた探究ラボ。従来の成果や行動の良し悪しを評価する「Review」ではなく、当事者の目線から選択の背景や葛藤を物語として振り返る「Look Back」の手法を探究・検証する取り組み。プロジェクトベースで動く現場において、一度きりの経験が属人化し、組織や未来へナレッジが継承されにくいという構造的課題の解決を目指した。2025年の第0期プレ開催では、10名の多様なプロジェクト実践者が集まり、全7回にわたるオンラインセッションを実施。参加者が自らのプロジェクト経験を紐解いてシェアする「話者の実践」と、「継承者の検証」を繰り返し、多くの振り返りサンプルの蓄積を行った。

啓蒙キャンペーン

2025年10月27日(月)

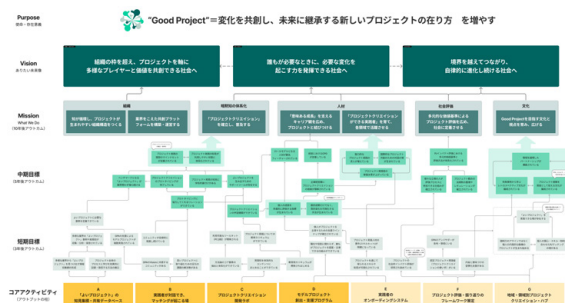
## 100 days left - SNS キャンペーン



「#100daysleft」は、年度末に集中する無理なスケジュールや過度な負荷を少しでも減らし、持続可能なプロジェクト運営のあり方を考えるための啓蒙キャンペーン。プロジェクトに関わる人々が納得感のある時間とプロセスを持てる社会を目指し、短期的な成果だけでなく、計画性や合意形成、健全な働き方の重要性を発信した。プロジェクト実践者や組織に向けて文化的な意識変容を促し、より良いプロジェクト環境づくりへの参加を呼びかけた。

### 課題の構造化

## プロジェクト環境の課題仮説ロジックツリーの策定



プロジェクト推進における構造的な課題を紐解くため、GPA内でのディスカッションとブレインストーミングを重ね、課題の全体像を可視化した「ロジックツリー Ver.1」を制作した。

このマップを足がかりに、今後深掘りすべき「Good Project」の探究テーマを探索。同時に、複雑に絡み合う現場の課題を言語化し、関係者間で広く共有することに努めた。

# 2026年 | 活動コンセプト



設立2年目を迎える Good Project Association は、企業・組織単位での生産性向上を主眼とする既存団体とは異なり、小さなチームや個人のプロジェクト実践に重点を置き取り組みを推進していきます。当法人が主体となって長期的な Good Project の指標づくりを進める「コアプログラム」と、有志メンバーの内発的な課題意識から生まれる自律的な実践をインキュベーションする「テーマプログラム」。このふたつを両輪に、そこから得られたナレッジを循環させるエコシステムの構築を目指します。

こうした活動を社会的な公器として機能させ、多様なステークホルダーとの連携を加速させていくため、本年度より運営方針を「非営利徹底型一般社団法人」へ移行します。営利活動との境界を明確にし、中立性と透明性を高めることで、本業を持つプロジェクト実務家が競合関係を気にせず安心して参画できる環境を整えます。

## Core Program

「Good Project」の要件を言語化・評価・可視化する  
リサーチプロジェクトを推進。将来的にはプロジェクト版  
の社会的指標策定を目指す3～4年計画の初年度。

## Theme Program

メンバー自身がプロジェクトオーナーとなって推進する探  
究・実践活動を支援。GPAが「傘」と「場」を提供し、  
得られた知見をエコシステムへと還元する。

## Good Project Association | 組織運営

取り組みを支える基盤として、非営利徹底型法人にふさわしい透明性の高い運営に取り組む。  
GPAに関わるメンバーや社会から信頼される「場」のインフラを継続的に育てていく。

# よいプロジェクトを、 ふたつの観点から考える

2026年から、Good Project Associationは「よいプロジェクトとは何か」という問いを、抽象的なスローガンにとどめず、言語化していくことを目指します。これから本格的なリサーチに取り組むにあたり、その出発点となる仮説・アイデアとして、現時点では以下のふたつの視点を思い描いています。

## 視点1 | メンバー自身に、変化が起きていること

プロジェクトはしばしば、対象を「as-is」から「to-be」へ変えていく営みとして語られます。けれど私たちは、それと同じ重みを、関わったメンバー自身の変容にも置きたいと考えています。たとえば、プロジェクトを通じて知り合ったメンバー間で新しい人間関係やコミュニティが立ち上がる。これまで挑んだことのない表現に取り組む、スキルや視野が広がる。関わった人の価値観が、ほんの少し更新される。そうした小さな変化を残したプロジェクトは、そのプロジェクトが完結した後でも次の一歩を踏み出すための原動力になります。

## 視点2 | 終わった後も、影響が続いていくこと

プロジェクトには有期性があり、必ず始まりと終わりがあります。しかし、終わりを迎えた瞬間にすべてが完結するわけではありません。生まれたものが世の中にどう定着していくのか。あるいはプロジェクト自身の試行錯誤や失敗の記録が、後に同じテーマに取り組む人へどう手渡されていくのか。プロジェクトの成果を単発の点ではなく、横や時間軸をもって有機的につながり合う線として捉え直すとき、ひとつの現場で得られた発見や価値観は、次のプロジェクトへと受け継がれていきます。持続可能性と「価値」を最大化するという観点から、私たちは「終わった後の続き方」にこそ、よいプロジェクトの輪郭が表れると考えています。

2026年度からは、これらの観点を理念のままにせず、具体的な営みへ落とし込むためのプログラムに取り組んでいきます。どのような特長や、どのような小さな行為が、よいプロジェクトの起点となりうるのか。プロジェクト実践者のみなさまとケーススタディを重ねながら、探求してまいります。

# プロジェクトを、上手にこなすより、 もっと楽しみたい人へ。

Good Project Associationは、プロジェクトを「クリエイティブな営み」として捉え、よいプロジェクトを探究する中で実践知を持ち寄り、循環させるための場です。

あなたに合った関わり方から、ぜひ参加をお待ちしています。

## 問いを持ち込み、プロジェクトを動かす。

### ① プロジェクトマネージャー (テーマプロジェクトにプロボノ参加)

プロジェクトにまつわるテーマや問いを、GPAというフィールドを使って一緒に探求しましょう。抱えているもやもやや、やってみたいことをプロジェクト化し、実現してみませんか。

例:「未来に継承できるふりかえりって?」「プロジェクト推進者が  
増えるにはどうしたらいい?」

## GPAの活動を、一緒に支える。

### ② 賛助会員 (法人・個人)

GPAの理念と活動に賛同し、プロジェクト型の実践知が循環する土壌をともに耕していただけるパートナーを募集しています。

主な特典: 主催・共催イベントの優先案内、各プログラムの先行参加、活動情報の共有機会(口数に応じて)、法人会員は公式サイトへの掲載。

会費(現物や機会の提供も可): 法人 年間50,000円~(1口)  
個人 年間5,000円~(1口)

## まず、情報を受け取ってみる。

### ③ Newsletter登録 Facebook Community

GPAの活動・イベント情報をニュースレターやFacebookグループでお届けします。  
登録・参加は無料です。

NEWS LETTER



Facebook



Good Project Association | Annual Report 2025

発行 2026年6月  
発行者 一般社団法人 Good Project Association  
所在地 東京都渋谷区神宮前4-26-28 原宿V2ビル2F  
お問い合わせ contact@good-project.or.jp  
Web https://good-project.or.jp/

Design: nivirus © 2026 Good Project Association. All rights reserved.  
本誌の無断転載・複製を禁じます。